

# 車いす / CRTシリーズ

# 取扱説明書

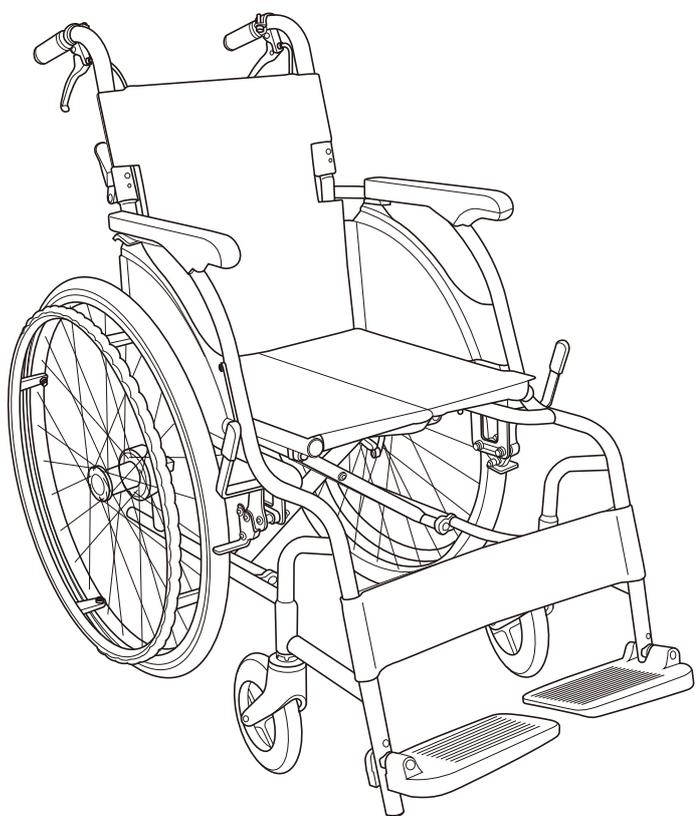
CRT-1/2/3/4/5/6/7/8/1Lo/2Lo/3Lo/4Lo/5Lo/6Lo/7Lo/8Lo/0

より快適に車いすをお使いいただくために

## はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

## 目次

使用目的・特徴	2
はじめにご確認ください	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた / たたみかた	8
シートの取り付け / 取り外し	9
乗り降りのしかた	11
アームサポートの跳ね上げ	12
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	12
各部の調節のしかた	13
フットサポートの高さ調節	13
使用上のご注意	14
困った時には	16
仕様	17
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書は、CRTシリーズ(CRT-1/2/3/4/5/6/7/8/1Lo/2Lo/3Lo/4Lo/5Lo/6Lo/7Lo/8Lo/0)共通の取扱説明書になります。

本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。  
該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに関する項目をお読みください。

## 使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

### CRT-1/3/5/7/1Lo/3Lo/5Lo/7Lo/0の場合

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

### CRT-2/4/6/8/2Lo/4Lo/6Lo/8Loの場合

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準型車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

## はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるとときに、下記のものすべてはいつていることを確認してください。

- 車いす本体
- 取扱説明書
- 工具(スパナ 2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ)
- 保証書
- 背シート
- 座シート
- レッグサポート

## 安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

### 【表示の意味】

- |  |   |
|--|---|
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。 |
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。               |
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。     |

### 【記号の意味】

- |  |                          |  |                     |
|--|--------------------------|--|---------------------|
|  | 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 |  | 禁止の行為であることを告げるものです。 |
|  | 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。  |  |                     |

## ⚠危険

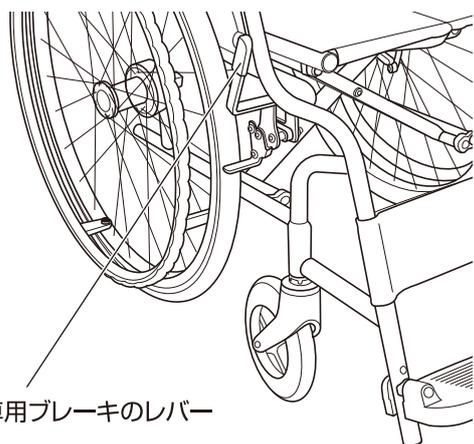
- ⊘ スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。  
駆動輪(主輪)が浮き上がり、転倒する恐れがあります。
- ⚠ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。
- ⚠ 自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。



- ⚠ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ⚠ シート取り付けの際はシートとベルトの面ファスナーを両側から押さえ、しっかり接着させてください。  
接着が不十分な場合、シートが外れ転倒し事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。  
転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

## ⚠警告

- ⚠ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。  
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ⊘ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。  
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ⚠ 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。  
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⚠ 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。  
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
- ⚠ 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。  
けがをする恐れがあります。
- ⊘ 手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。  
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- ⚠ フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。



駐車用ブレーキのレバー

## 警告

-  制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
-  走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
-  前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。
-  ウイングアームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  ウイングアームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。
-  アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
-  車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

## 注意

-  この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
-  車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。手をはさみ危険です。


-  最大体重（積載物含む）は100kgになります。体重制限を守って使用してください。
-  折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさみ危険です。


-  使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
-  暖房器具にタイヤを近づけないでください。エアータイヤの場合、タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。


-  背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
-  アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

## ⚠️ 注意

❗ 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。

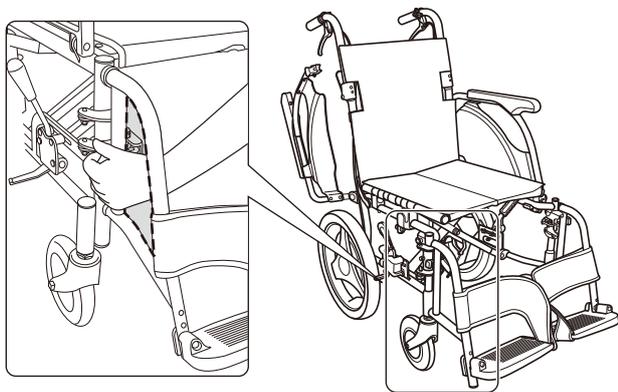
⊘ 走行中、身体を乗り出さないでください。  
走行の安全を損ない危険です。

❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。  
車いすの破損や故障の原因となります。

⊘ フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。  
けがをする恐れがあります。

⊘ フットサポートの下には足を入れないでください。  
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

❗ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。  
けがをする恐れがあります。



⊘ 車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。

❗ ワンハンドブレーキをかけた際は、操作側と反対側の両方のブレーキがしっかりとかかっていることを確認してください。  
ブレーキのかかりが緩いと車いすが動きだし転倒する恐れがあります。

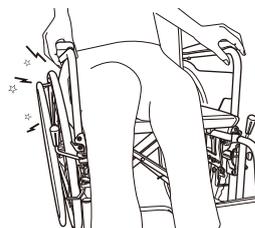
❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 使用する前に駆動輪(主輪)・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、緩んでいるときは増し締めをしてください。  
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 段差のあるところを上り下りしたり、斜面に進入するときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。  
車いすの破損や故障の原因となります。

⊘ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。  
製品を傷める恐れがあります。

⊘ 使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。  
車いすの破損や故障の原因となります。



❗ 段差乗り越え時等でキャストを上げる際は必ず押手ハンドルを手前に引くと同時に足元のティッピングレバーを押し出して下さい。  
押手ハンドルのみ無理な力がかかるとフレームの破損につながります。

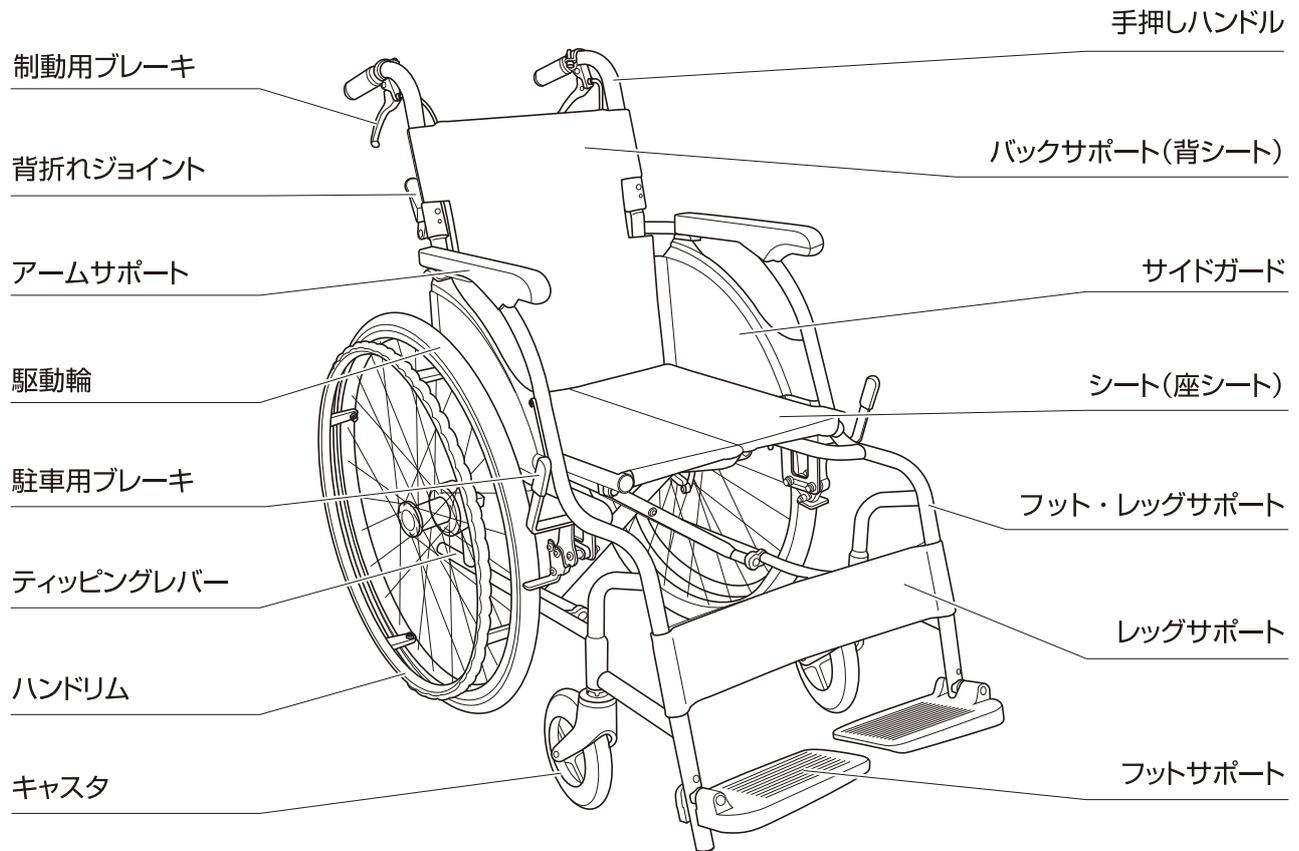
❗ フットレッグサポートを開いて使用する際は、フットレッグサポートを取り外してください。  
フットレッグサポートを取り外さず開いたまま使用すると、駐車用ブレーキや障害物との接触などにより、故障やけがにつながる恐れがあります。

❗ 伸縮延長レバーの長さを変更する際、レバーのすき間に指などを入れないようご注意ください。  
けがをする恐れがあります。

# 各部のなまえ

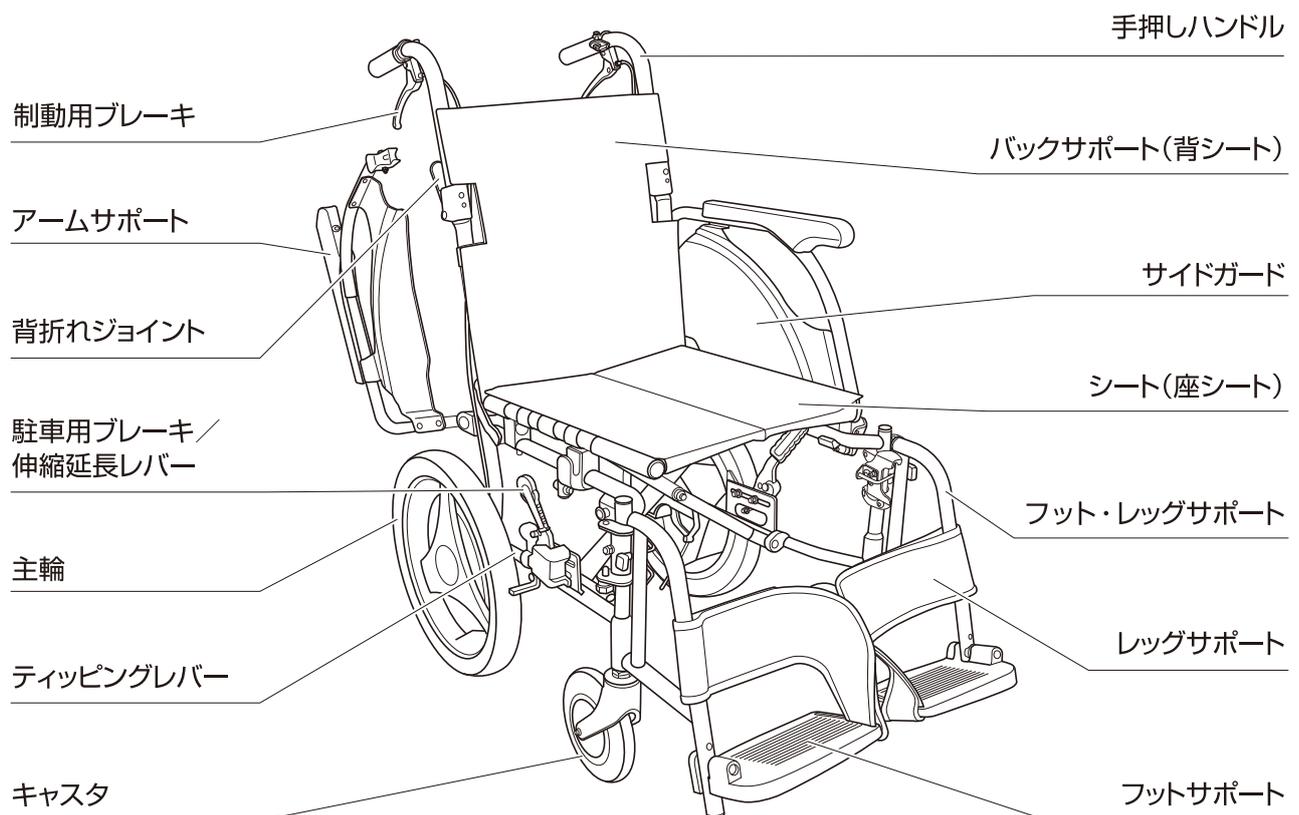
## 自走型

イラストはCRT-1



## 介助型

イラストはCRT-8



# 使いかた

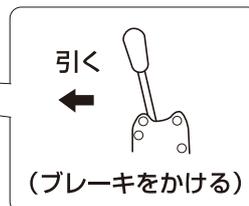
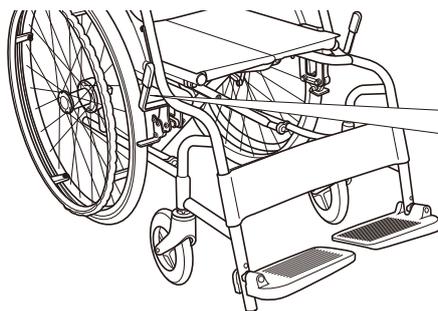
## ブレーキのかけかた

### ⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ エアータイヤの場合、タイヤの空気圧低下に注意してください。空気圧が低いと、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ ハイポリマータイヤの場合、タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

### ● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



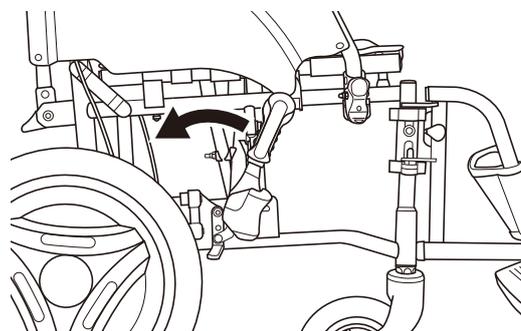
### ワンハンドブレーキについて

CRT-5/6/7/8/5Lo/6Lo/7Lo/8Loの場合

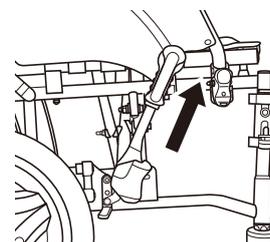
ワンハンドブレーキは左右いずれか一方のレバーを引くことで、両輪の駐車用ブレーキをかけることができます。

### ⚠ 注意

- ・ ワンハンドブレーキは左右のブレーキが連動して動きます。手や指を挟まないように注意してください。
- ・ ワンハンドブレーキをかけた際は、操作側と反対側の両方のブレーキがしっかりとかかっていることを確認してください。ブレーキのかかりが緩いと車いすが動きだし転倒する恐れがあります。
- ・ 伸縮延長レバーの長さを変更する際はレバーがカチッと音がしロックされるまでしっかり上へ引き上げてください。※元に戻す際は手のひらにて下に押し込むようにしてください。



また、伸縮延長レバーを伸ばすと軽い力でブレーキを操作することができます。

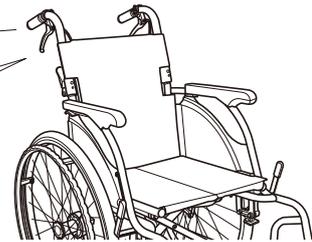
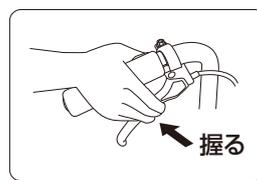


## ● 制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。</li> </ul>
⚠ 警告	<p>制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</p>
⚠ 注意	<p>ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に1度）</p>

介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。ブレーキレバーを放すと解除されます。

制動用ブレーキレバー

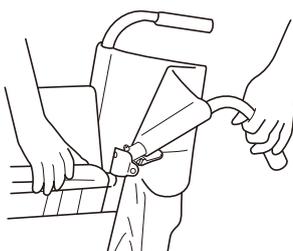


## 車いすの開きかた / たたみかた

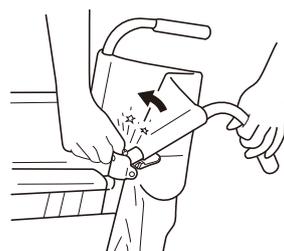
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。</li> <li>・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。</li> <li>・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。</li> <li>・背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないよう注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。</li> </ul>
------	---

### ● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを両側とも上げます。
  - \* 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
  - \* このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。



押し手を両側とも上げる



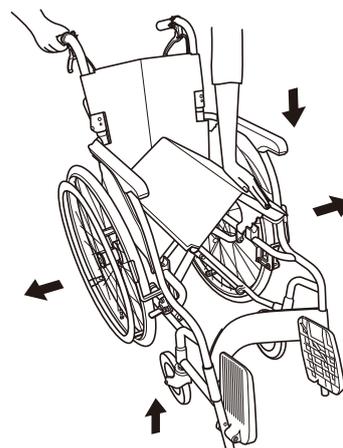
手をはさむおそれあり

- 3 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

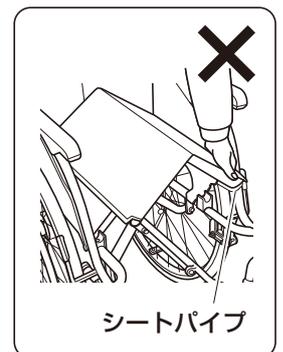
- 4 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。

- 5 駆動輪（主輪）を浮かせていない側のシートパイプを、手の平で押して開きます。

- \* シートパイプを握らないでください。
- \* シートがシートパイプ受けなどに挟まれないことを確認してください。



片側の駆動輪（主輪）を浮かせる

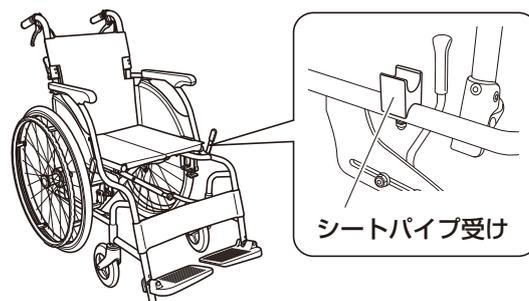


シートパイプ

シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認してください。

\*しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押しはめてください。押し時は、シートパイプの先端を押しさないでください。フレームが変形する恐れがあります。

シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。



## ● たたみかた

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

**2** 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。

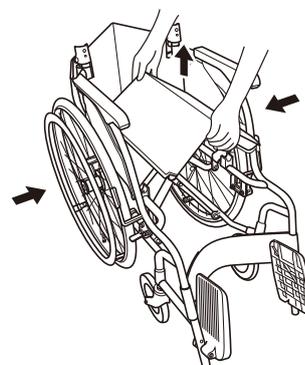


**3** フットサポートを両側とも上げます。

**4** 座のシートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

**5** 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座のシートを折りたたみます。

\*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



## シートの取り付け / 取り外し

### △注意

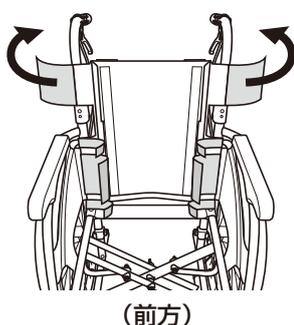
- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。付け外しの際、面ファスナー部分が衣服に接着するとほつれなど衣服が傷む恐れがあります。また、面ファスナーの接着が弱くなる原因にもなりますのでご注意ください。
- ・シート取り付けの際はシートとベルトの面ファスナーを両側から押さえ、しっかり接着させてください。接着が不十分な場合、シートが外れ転倒し事故やけがにつながる恐れがあります。

## ● 取り付けかた

**1** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

**2** 車いすのフレームを軽く開いた状態にします。

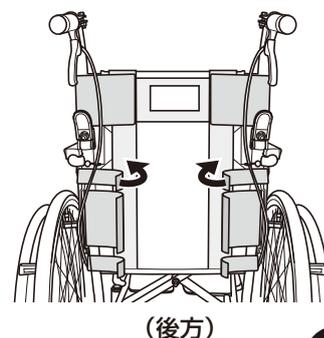
**3** 背シートを取り付けます。背シートを中表にし、付帯する黒いベルトを背パイプへ巻きつけます。上から下へ左右交互に行います。



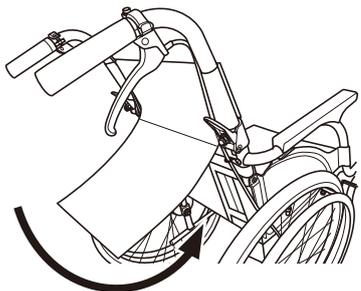
横板や座パイプのある箇所は背パイプとの間を通すようにして巻きつけます。

巻きつけたら背シート本体の面ファスナーと付帯するベルトの面ファスナーを貼り合わせます。

シートとベルトの面ファスナーを両側から押さえ、しっかり接着させます。



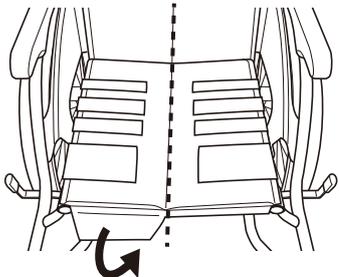
- 4** 図のように背シートを戻し、黒いベルトの面ファスナーと貼り合わせます。



- 5** 座シートを取り付けます。  
座シートに付帯する黒いベルトの面ファスナーを剥がし、ベルトを伸ばした状態にします。

フラップ部を前にし、座シートを後方の座ベルトにそれぞれの中心が揃う様に貼り付けます。

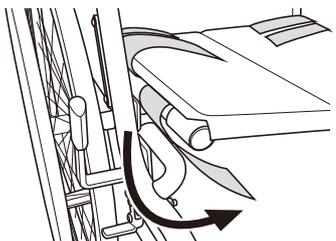
前方も同様に中心を揃えて貼り付けたのち、フラップを折り返して面ファスナーを貼り合わせます。



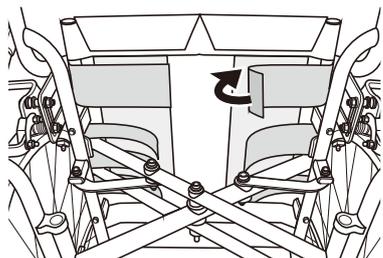
- 6** 座シートに付帯する黒いベルトを座パイプに巻きつけます。

前方から後方へ左右交互に行います。

図のように座パイプとエックスフレームの間を通します。



巻きつけたら座シート本体の面ファスナーと付帯するベルトの面ファスナーを軽く貼り合わせます。



- 7** 背シートと座シートを取り付けたら座シートパイプを手のひらで押さえ、車いすを完全に開きます。

\*シートパイプを握らないでください。

\*シートがシートパイプ受けなどに挟まれていないことを確認してください。

- 8** 車いすを後方へ倒し、座シートの張り具合を確認しながら黒いベルトを貼り合わせます。  
貼り合わせたら車いすを起こします。

シートとベルトの面ファスナーを両側から押さえ、しっかり接着させます。

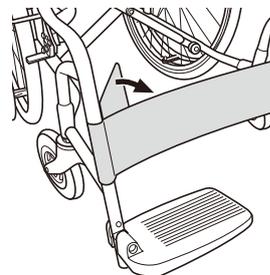
- 9** レッグサポートを取り付けます。

<ワンピースタイプの場合>

**CRT-1/2/5/6/1Lo/2Lo/5Lo/6Lo**

レッグサポートの端をレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

レッグサポートを巻きつける長さは左右同じにしてください。



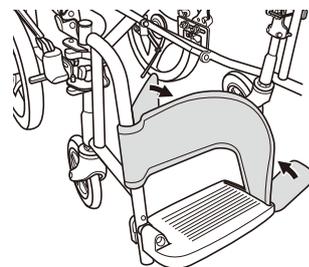
<セパレートタイプの場合>

**CRT-3/4/7/8/3Lo/4Lo/7Lo/8Lo**

レッグサポートの幅広側の端をレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。

穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。



反対側も同様の作業を行います。

- 10** シート取り付けが完了したら、シートに力を加え、確実に固定されていることを確認します。

## ● 取り外しかた

取り外しは逆の手順になります。

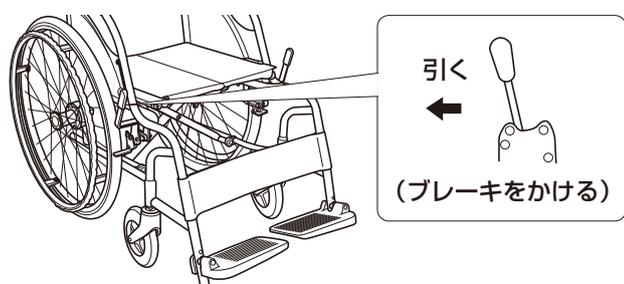
## 乗り降りのしかた

### ⚠ 警告

- ・乗り降り時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・ワンハンドブレーキをかけた際は、操作側と反対側の両方のブレーキがしっかりとかかっていることを確認してください。ブレーキのかかりが緩いと車いすが動きだし転倒する恐れがあります。(CRT-5/6/7/8/5Lo/6Lo/7Lo/8Lo の場合)

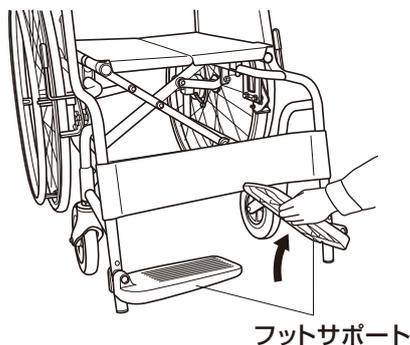
### ● 乗りかた

- 1** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



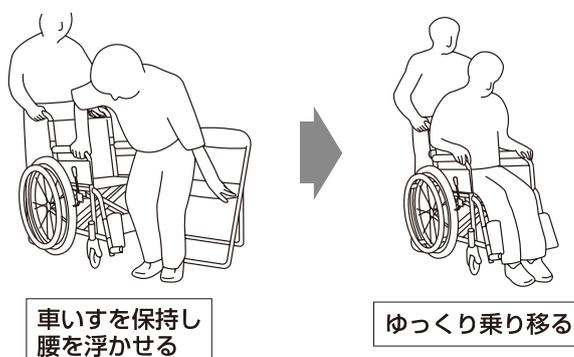
- 2** フットサポートを両側とも上げます。

- \* フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- \* 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



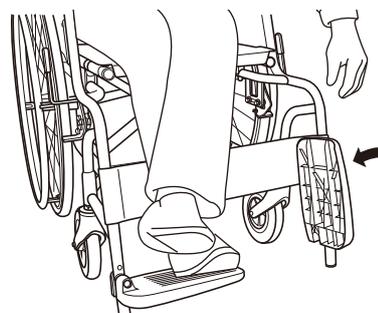
- 3** 必要に応じて、フット・レッグサポートの開閉・取り外し (P.12 参照) や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」 (P.12 参照) を行います。

- 4** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



- 5** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」を行っていた場合は、元に戻します。

- 6** フットサポートを下ろして両足を乗せます。



### ● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

## アームサポートの跳ね上げ

CRT-3/4/7/8/3Lo/4Lo/7Lo/8Lo の場合

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。  
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

<p>⚠注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。</li> <li>・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。 アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。</li> </ul>
------------	---

### ● 跳ね上げかた

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

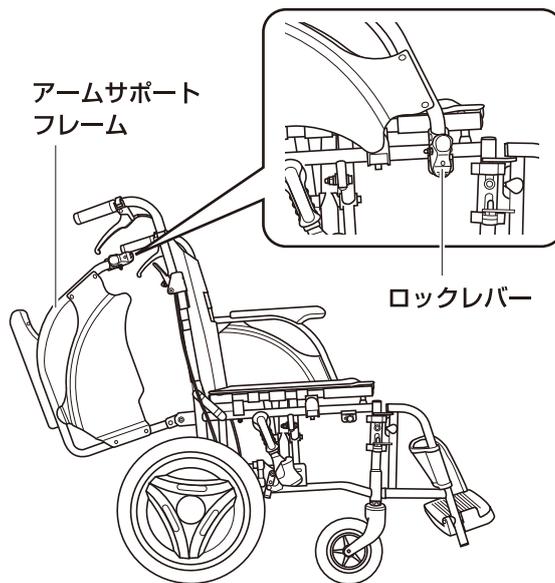
\*アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

### ● 戻しかた

<p>⚠注意</p>	<p>アームサポートを下ろすときは、身体や衣服を挟み込まないように注意してください。</p>
------------	--

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

\*アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。



## フット・レッグサポートの開閉・取り外し

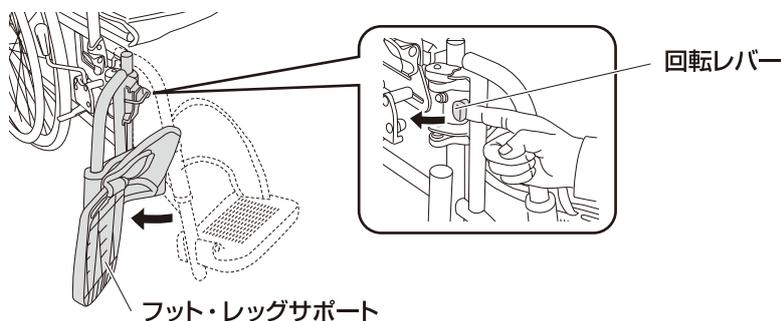
CRT-3/4/7/8/3Lo/4Lo/7Lo/8Lo の場合

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

<p>⚠警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。</li> <li>・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 けがをする恐れがあります。</li> <li>・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。</li> </ul>
------------	---

### ● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



## ● 閉じかた

**△注意** フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

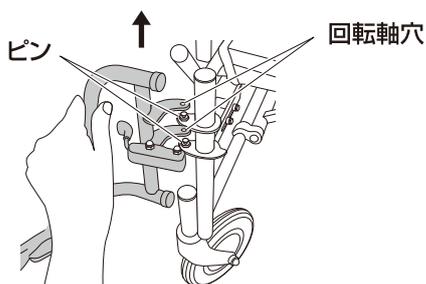
閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

## ● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

## ● 取り付けかた

**1** 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



**2** フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

\* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

\* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

# 各部の調節のしかた

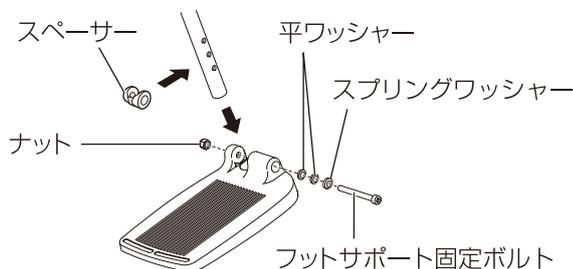
**△警告** 各部の調節は必ず駐車ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

## フットサポートの高さ調節

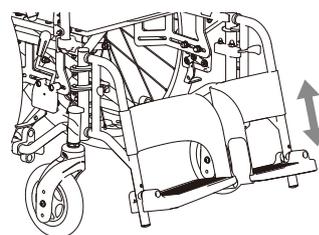
フットサポートは20mm 間隔で3段階の高さに調節することができます。

**1** 駐车用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

**2** フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



**3** 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



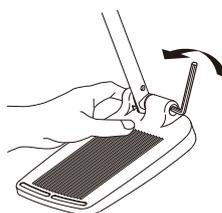
**4** 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

\* 反対側も同様に調節してください。

## フットサポート調節のコツ

取り外すとき

**1** 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出てきたら、ナットを指で押さえておきます。



**△注意**

ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

**2** フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

# 使用上のご注意

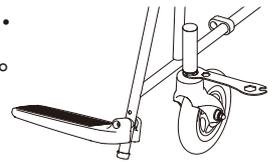
## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

\*修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告

キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



### エアタイヤの場合

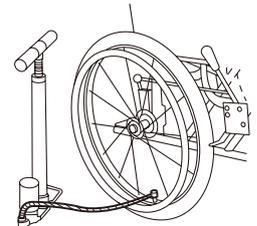
・タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。

(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)

・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。

それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。



- ・車いすは熱気、湿気に弱いいため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)

### ● 消耗品、交換部品の確認

### 消耗品・交換部品

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

・ハイポリマータイヤの場合、表面に溝がない状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

## お手入れ・保管について

### ● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

### ● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

### ● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。</li> <li>・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。</li> </ul>
-----	--

● **タイヤのお手入れ**

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。  
水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

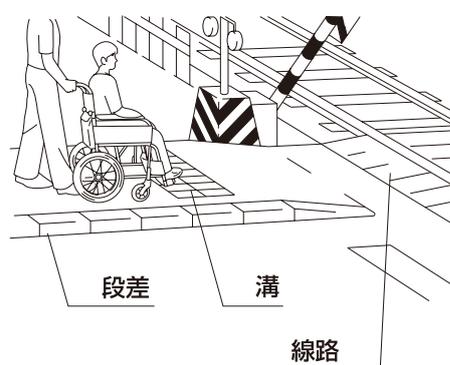
● **保管・収納について**

- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

⚠ <b>注意</b>	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
-------------	--

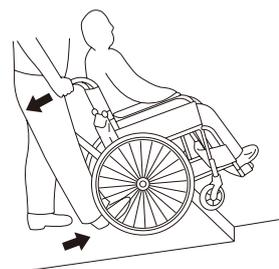
**走行上のご注意**

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



**段の上がりかた**

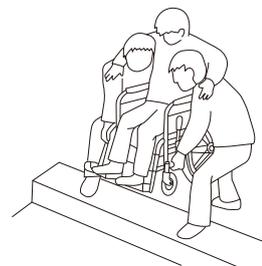
- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。
- 2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。  
\*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



**車いすに乗ったまま持ち上げる場合**

⚠ <b>警告</b>	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。
-------------	--

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。



**段の下りかた**

- 手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。
- \*無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
  - \*段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。  
車いすの破損や故障の原因となります。

# 困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	車いすは、傾斜面では低い方へキャストが流れる特性があります。	
	駆動輪（主輪）の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。(*)	左右の駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。 キャスト・駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）の空気圧は適正ですか。(*)	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
	ワンハンドブレーキで両方のブレーキがしっかりとかかりますか。(**)	
	タイヤ押さえに変形や摩耗はありませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪（主輪）に空気がはいらぬ、すぐにぬける。	適正な空気圧で補充してありますか。(*)	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）が緩んでいませんか。(*)	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。(*)	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や駆動輪（主輪）とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪（主輪）など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	背シートの張り具合を締めすぎていませんか。	背シートの張り具合を調整してください。

(\*) エアタイヤの場合

(\*\*) CRT-5/6/7/8/5Lo/6Lo/7Lo/8Lo の場合

# 仕 様

	機種名				
	CRT-1	CRT-2	CRT-3	CRT-4	CRT-5
フレーム材料	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材料	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC
アームサポートタイプ	固定式	固定式	開閉式(ウイング)	開閉式(ウイング)	固定式
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン
グリップ	PVC	PVC	PVC	PVC	PVC
バックサポート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート
背折れ	あり	あり	あり	あり	あり
フット・レッグサポート タイプ	固定式	固定式	開閉式 (スイングアウト)	開閉式 (スイングアウト)	固定式
フットサポート	軽量	軽量	軽量	軽量	軽量
キャスト	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング
タイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ
ハンドリム	プラハンドリム	なし	プラハンドリム	なし	プラハンドリム
駐車用ブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き

測定項目	機種名				
	CRT-1	CRT-2	CRT-3	CRT-4	CRT-5
駆動輪(主輪)径 (inch)	22×1	14×1.5	22×1	14×1.5	22×1
適正空気圧 (kpa)	700	300	700	300	—
キャスト径 (inch)	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング
前座高 (mm)	435	435	435	435	435
後座高 (mm)	410	410	410	410	410
シート奥行 (mm)	380	380	380	380	380
シート幅 (mm)(※1)	400 (360)	400 (360)	400 (360)	400 (360)	400/420 (360/380)
バックサポート高 (mm)	400	400	400	400	400
フットサポート・ シート間距離 (mm)	340/360/380	340/360/380	340/360/380	340/360/380	340/360/380
アームサポート高 (mm)	245	245	245	245	245
全高 (mm)	880	880	880	880	880
全幅 (mm)	550	490	550	490	550/570
全長 (mm)	980	980	980	980	980
折りたたみ全高 (mm)	705	705	705	705	705
折りたたみ全幅 (mm)	320	250	320	250	320
折りたたみ全長 (mm) (※2)	930	850	690 (930)	640 (880)	930
重量 (kg)	9.4	7.9	10.7	9.3	9.9

(※1)( )内は座シート寸法。(※2)( )内はスイングアウト取り付け時の寸法。

# 仕 様

	機種名				
	CRT-6	CRT-7	CRT-8	CRT-1Lo	CRT-2Lo
フレーム材料	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材料	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC
アームサポートタイプ	固定式	開閉式 (ウイング)	開閉式 (ウイング)	固定式	固定式
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン
グリップ	PVC	PVC	PVC	PVC	PVC
バックサポート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート
背折れ	あり	あり	あり	あり	あり
フット・レッグサポート タイプ	固定式	開閉式 (スイングアウト)	開閉式 (スイングアウト)	固定式	固定式
フットサポート	軽量	軽量	軽量	軽量	軽量
キャスト	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ
ハンドリム	なし	ブラハンドリム	なし	ブラハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	SKブレーキ	SKブレーキ

測定項目	機種名				
	CRT-6	CRT-7	CRT-8	CRT-1Lo	CRT-2Lo
駆動輪(主輪)径 (inch)	14×1.5	22×1	14×1.5	22×1	14×1.5
適正空気圧 (kpa)	—	—	—	700	300
キャスト径 (inch)	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング
前座高 (mm)	435	435	435	400	400
後座高 (mm)	410	410	410	375	375
シート奥行 (mm)	380	380	380	380	380
シート幅 (mm)(※1)	400/420 (360/380)	400/420 (360/380)	400/420 (360/380)	400 (360)	400 (360)
バックサポート高 (mm)	400	400	400	400	400
フットサポート・ シート間距離 (mm)	340/360/380	340/360/380	340/360/380	300/320/340	300/320/340
アームサポート高 (mm)	245	245	245	245	245
全高 (mm)	880	880	880	845	845
全幅 (mm)	490/510	550/570	490/510	550	490
全長 (mm)	980	980	980	960	960
折りたたみ全高 (mm)	705	705	705	670	670
折りたたみ全幅 (mm)	250	320	250	320	250
折りたたみ全長 (mm) (※2)	850	690 (930)	640 (880)	920	840
重量 (kg)	9.1	11.2	10.5	9.4	7.9

(※1)( )内は座シート寸法。(※2)( )内はスイングアウト取り付け時の寸法。

機種名					
CRT-3Lo	CRT-4Lo	CRT-5Lo	CRT-6Lo	CRT-7Lo	CRT-8Lo
アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC
開閉式 (ウイング)	開閉式 (ウイング)	固定式	固定式	開閉式 (ウイング)	開閉式 (ウイング)
ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン
PVC	PVC	PVC	PVC	PVC	PVC
スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート	スリングシート
あり	あり	あり	あり	あり	あり
開閉式 (スイングアウト)	開閉式 (スイングアウト)	固定式	固定式	開閉式 (スイングアウト)	開閉式 (スイングアウト)
軽量	軽量	軽量	軽量	軽量	軽量
ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング
エアータイヤ	エアータイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ
サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ	サーボブレーキ
ブラハンドリム	なし	ブラハンドリム	なし	ブラハンドリム	なし
SKブレーキ	SKブレーキ	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き

機種名					
CRT-3Lo	CRT-4Lo	CRT-5Lo	CRT-6Lo	CRT-7Lo	CRT-8Lo
22×1	14×1.5	22×1	14×1.5	22×1	14×1.5
700	300	—	—	—	—
6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング	6ソフトフォーミング
400	400	400	400	400	400
375	375	375	375	375	375
380	380	380	380	380	380
400 (360)	400 (360)	400 (360)	400 (360)	400 (360)	400 (360)
400	400	400	400	400	400
300/320/340	300/320/340	300/320/340	300/320/340	300/320/340	300/320/340
245	245	245	245	245	245
845	845	845	845	845	845
550	490	550	490	550	490
960	960	960	960	960	960
670	670	670	670	670	670
320	250	320	250	320	250
695 (920)	640 (870)	920	840	695 (920)	640 (870)
10.7	9.3	9.9	9.1	11.2	10.5

## 仕 様

	機種名
	CRT-O
フレーム材料	アルミ
シート材料	ポリエステル PVC
アームサポートタイプ	固定式
アームサポート	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン
グリップ	PVC
バックサポート	スリングシート
背折れ	あり
フット・レッグサポート タイプ	固定式
フットサポート	軽量
キャスト	ソフトフォーミング
タイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	サーボブレーキ
ハンドリム	アルミハンドリム
駐車用ブレーキ	SKブレーキ

測定項目	機種名
	CRT-O
駆動輪(主輪)径 (inch)	22×1
適正空気圧 (kpa)	700
キャスト径 (inch)	6ソフトフォーミング
前座高 (mm)	435
後座高 (mm)	410
シート奥行 (mm)	380
シート幅 (mm)(※1)	400 (360)
バックサポート高 (mm)	400
フットサポート・ シート間距離 (mm)	340/360/380
アームサポート高 (mm)	245
全高 (mm)	880
全幅 (mm)	540
全長 (mm)	980
折りたたみ全高 (mm)	705
折りたたみ全幅 (mm)	310
折りたたみ全長 (mm) (※2)	930
重量 (kg)	8.9

(※1)( )内は座シート寸法。  
(※2)( )内はスイングアウト  
取り付け時の寸法。

**静的安定性試験方法** (弊社ではJIS T9201 10.1.2a方法によって試験を行っています。)

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ (UNF1/2-20山) 仕様になります。

## アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

## 保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

  
株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号